

KIMURA Hideki

Charcoal



京都市立芸術大学退任記念
木村秀樹展
Charcoal

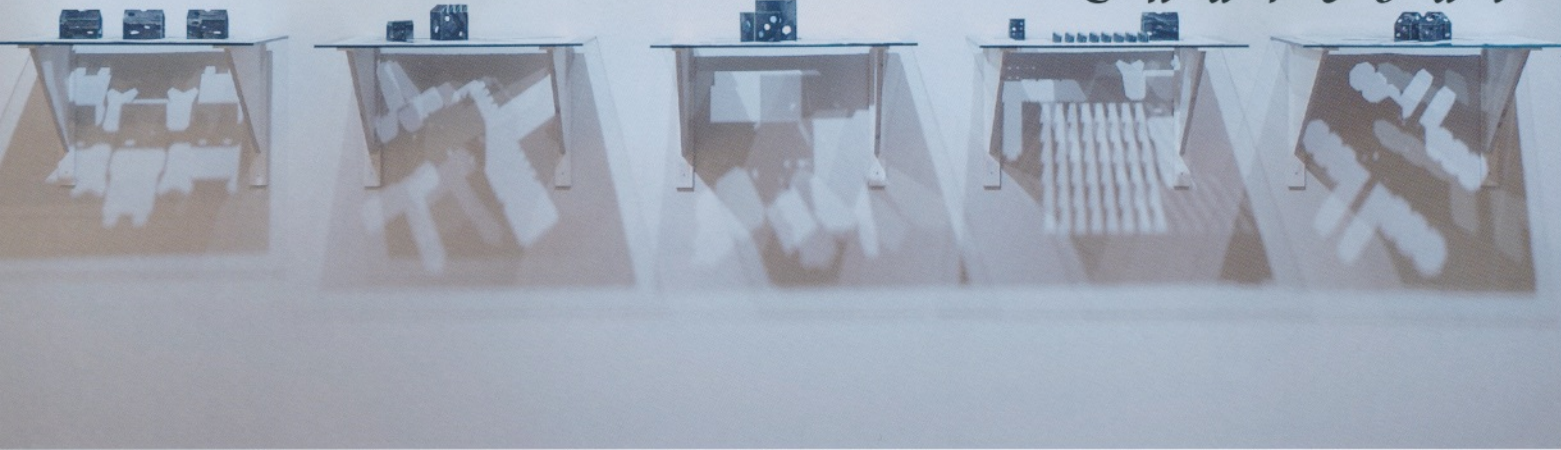
同時開催 「木村秀樹の'70年代」

2014 3.15-3.30

@KCUA

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY
京都市立芸術大学 ギャラリー・アークア [堀川御池ギャラリー内]



退任記念展といえば回顧展という定説に抗って、木村は最近作で会場を構成する事にしました。最近作とは2012年に開始された、Charcoal のシリーズと名付けている一連の試みです。

炭の表面／オブジェを作る

フラットな面に炭をびっしりと並べ接写。その画像を原寸大で出力し、シルクスクリーンの版を作る。炭の粉を練り込んだインクで印刷する。印刷された紙を部分的に焦がす。以上のプロセスを通過する事で、①イメージとしての炭と②炭の粉という物質そして③焦げ(あと)という物質、3種類の炭が合体した炭の表面／オブジェを作成します。

炭の表面／オブジェを素材として扱う

炭の表面／オブジェは、そのものとしては、制作の最終目的地すなわち作品ではありません。あくまでも次のステップへと繋ぐ通過素材です。絵具やキャンバスといった美術制作を前提として生産された素材はもとより、日常的な大量生産品、あるいは石や木といった自然物等、おおよそ美術に変換可能な全ての物体／物質と同等の素材として位置づけられます。

どこまで変形させる事ができるか

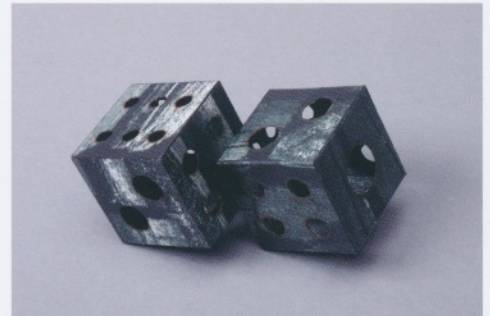
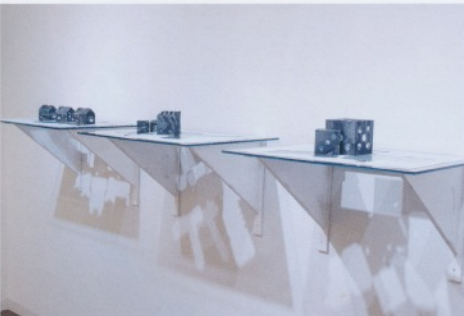
炭の表面／オブジェと記していますが、紙にシルクスクリーン印刷した版画です。現時点では、それに穴をあけ、カッターで切り込みを入れ、折り返し、3次元の造形物に変形させています。この試行は、2003年に浮かんだ、裏表のない絵が作れないか?というアイデアが土台になっています。

今回の展示

素材としての「表面／オブジェ」の変形という方向は、3次元の変形を含む、各々つながりの無いアイデアの束として手元に雑然と横たわっている、というのが正直な制作状況です。見かけのまとまりに反して、雑然とした内実を含む展示になるかも知れませんが、退任記念展という場にごそ、実験性はふさわしいと考えています。

今回の展示を実現するにあたって、実に多くの方々のご協力を得ました。下に記して厚く謝意を表します。

木村 秀樹



同時開催 「木村秀樹の'70年代」

1974年から'78年に制作した作品16点を展示します。'80年代以降、現在に至るまでの制作にとって、基点であり母型であり作用因でもあるような作品を選んでいきます。

形式的には、紙、磨りガラス、等を支持体とした平面作品と、レディメイドの椅子とそのミニチュアの組み合わせ、ステンレス板にシルクスクリーン印刷を施したユニットを3次元的に展開した、インスタレーションの併設となります。技法的には写真製版のシルクスクリーンが中心となっています。

主会場に展示される最新作との対比によって、思考の変遷と同質性に思いを巡らせて頂ければ幸いです。

主催：京都市立芸術大学
 写真撮影：武田 照行 劇り：谷山 文衛 作品撮影：上原 徹
 デザイン：濱田 弘明
 協力：伊藤 学美、鳥居本 顕史
 宮越 裕子、平田 彩乃、上田 優奈、鈴木 結紀子、中井 侖美、西田 千紗、
 野田 愛香、藤田 紗衣、小西 景子、坂東 志保、数下 祐可

2014 3/15(土)-3/30(日)

3月15日(土)午後4時より木村秀樹・叶道夫退任記念展レセプションパーティー
 @KCUA 1 開館時間：午前11時-午後7時(入場は6時45分まで)
 休館日：月曜日

@KCUA

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY
 京都市立芸術大学 ギャラリー・アクトア [堀川御池ギャラリー内]

地下鉄「二条城前」駅〈2番出口〉徒歩約3分
 市バス「堀川御池」バス停下車すぐ
 京都市中京区油小路通御池押油小路町 238-1
 〒604-0052 <http://www.kcuu.ac.jp/gallery/>

